

# 減災対策の取り組みについて

# 目次

1. 活動報告(タイムラインの実施状況)
2. 水位の自動配信について
3. 浸想図の改定を受けた実施方針の再確認

# ①活動報告(タイムラインの実施状況)【平成28年8月台風10号】

## ◆平成28年8月台風10号接近の5日前からタイムライン始動

- 新宮市、紀宝町、和歌山県、三重県、国からなる「熊野川下流部減災対策協議会」で検討された減災に係る取組方針に基づき、**台風接近の5日前からタイムラインを実践。**
- タイムラインに基づき、**紀宝町タイムライン定例連携会議(合同でのテレビ会議)**を紀宝町、三重県、津地方気象台、**紀南河川国道事務所で開催し、台風10号の接近に備えて、現在の状況共有や今後の取り組むべき内容・体制を確認。**
- 幸い、はん濫注意水位を超えるような出水にはならなかったものの、**事前準備の結果、関係機関との迅速な情報共有や、円滑な施設操作が可能**となった。

平成28年8月25日9時  
台風接近の5日前の予測



### 【紀宝町】

- ①紀宝町自体の動き  
(インフラ、教育、福祉、環境衛生等各部局の施設・設備の点検状況、避難に関する調整等)
- ②他の防災関係機関(県/警察/消防/消防団/社会福祉協議会)による資機材の準備状況等

紀宝町タイムライン定例連携会議(合同でのテレビ会議)  
平成28年8月25日(木)16時30分～



### 【津地方気象台】

- ・今後の進路に関する情報提供
- ・気象に関する注意喚起

### 【近畿地方整備局】

- ・台風データベースより類似コースの検索結果提供
- ・早い段階から水位予測提供

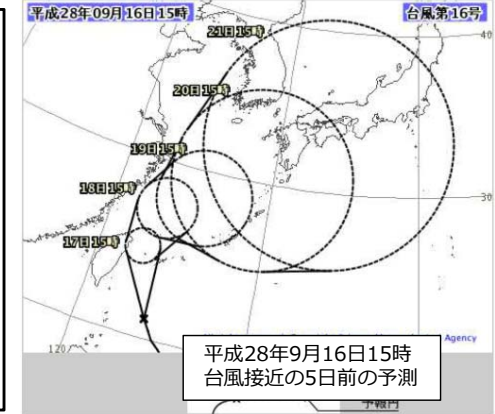
紀宝町タイムライン



# ①活動報告(タイムラインの実施状況)【平成28年9月台風16号】

## ◆平成28年9月 台風16号接近の5日前からタイムライン始動

- 新宮市、紀宝町、和歌山県、三重県、国からなる「熊野川下流部減災対策協議会」で検討された減災に係る取組方針に基づき、**台風接近の5日前からタイムラインを実践。**
- タイムラインに基づき、**紀宝町タイムライン定例連携会議(合同でのテレビ会議)**を**紀宝町、三重県、津地方気象台、紀南河川国道事務所**で開催し、**台風16号の接近に備えて、現在の状況共有や今後の取り組むべき内容・体制を確認。**
- 紀宝町では台風接近に**事前に避難所を開設し、30名が自主的に避難した。**
- 幸い、はん濫注意水位を超えるような出水にはならなかったものの、**事前準備の結果、関係機関との迅速な情報共有**が行われた。



紀宝町タイムライン定例連携会議(合同でのテレビ会議)  
平成28年9月20日(火)10時30分～



### 【紀宝町】

- ①紀宝町自体の動き  
(インフラ、教育、福祉、環境衛生等各部局の施設・設備の点検状況、避難所の開設等)
- ②他の防災関係機関(県/警察/消防/消防団/社会福祉協議会)による資機材の準備状況等

### 【津地方気象台】

- ・今後の進路に関する情報提供
- ・気象に関する注意喚起



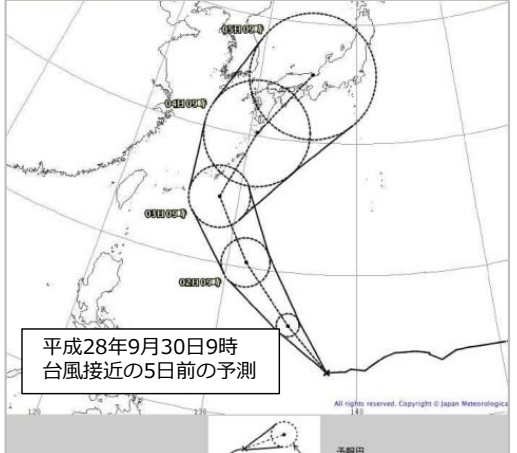
### 【近畿地方整備局】

- ・水位の予測状況、流域のダム状況

# ①活動報告(タイムラインの実施状況)【平成28年10月台風18号】

## ◆平成28年10月 台風18号接近の5日前からタイムライン始動

- 新宮市、紀宝町、和歌山県、三重県、国からなる「熊野川下流部減災対策協議会」で検討された減災に係る取組方針に基づき、**9月30日17時(台風接近の5日前)からタイムラインを始動。**
- タイムラインに基づき、**紀宝町タイムライン定例連携会議(合同でのテレビ会議)を紀宝町、三重県、津地方気象台、紀南河川国道事務所で開催し、台風18号の接近に備えて、現在の状況共有や今後の取り組むべき内容・体制を確認。**
- 幸い、はん濫注意水位を超えるような出水にはならなかったものの、タイムライン定例連携会議を2回行い、**事前準備の結果、関係機関との迅速な情報共有が行われた。**
- 台風接近前に観測所の臨時点検を行った。



### タイムライン定例連携会議(合同でのテレビ会議)

### 観測所の点検



【紀宝町】

- ①紀宝町自体の動き  
(インフラ、教育、福祉、環境衛生等各部局の施設・設備の点検状況、避難所の開設等)
- ②他の防災関係機関(県/警察/消防/消防団/社会福祉協議会)による資機材の準備状況等

【近畿地方整備局】

- ・水位の予測状況

【津地方気象台】  
【環境防災総合政策研究機構】

- ・今後の進路と降雨に関する情報共有
- ・気象に関する注意喚起

【点検内容】

- ・副水位計との数値の比較
- ・操作盤の確認
- ・水位計本体の確認
- ・データ通信機の確認

## ②水位の自動配信について

避難行動のきっかけとなる情報をリアルタイムで提供（SNSの活用）

水位・雨量情報や洪水予報等の情報をTwitterで提供



スマホ等で取得

A screenshot of a Twitter post from the Japanese Red Cross (JRC) showing a river water level graph and a live camera view of a river. The graph shows water levels for different stations over time, and the live camera shows a wide river with a dam in the background.

ツイート フォロー フォロワー

項目	水防団待機	はん濫注意	避難判断	はん濫危険
基準値	水位 3.00m	水位 3.50m	水位 5.00m	水位 5.50m
水位	0.28m ↓			

河川水位

ライブカメラ

# ③浸想図の改定を受けた実施方針の再確認

## ハード対策の主な取組

③洪水を安全に流下させる河道と被害を最小限に食い止める粘り強い堤防の整備

### ■洪水を河川内で安全に流す対策

○河道掘削(今後概ね5年間で整備する区間【近畿地方整備局設定】)

### ■危機管理型ハード対策

○天端の保護(今後概ね5年間で整備する区間【近畿地方整備局設定】)

○裏法尻の補強(今後概ね5年間で整備する区間【近畿地方整備局設定】)

※ 青字 : 概ね5年で実施する取組

灰色字: 継続的に実施予定の施策

□ : 浸想図改定により影響がある取組

## ソフト対策の主な取組

①迫りくる危機を把握し、事前に回避するための避難行動、自主防災意識の向上

### ■情報伝達・避難計画等

- ・タイムラインの検証(住民参加の試行運用の実施、情報の一元化、地区タイムライン等の策定と検証、情報提供ツールの検証、「避難勧告等の判断・伝達マニュアル」の更新)

・想定最大外力による大規模氾濫の場合の広域的な避難対策の検証

○洪水予報文の改善

### ■平時から住民等への周知・教育・訓練

○想定最大外力を対象とした洪水浸水想定区域図の策定・公表

○想定最大外力を対象とした氾濫シミュレーションの公表

・想定最大外力を対象とした洪水ハザードマップの策定・周知

・首長も参加したロールプレイング等の実践的な避難訓練の実施

○日常から水災害意識の向上を図り、迅速な避難を実現するため、まちごとハザードマップや避難誘導表示板などの整備

・小中学校における水災害教育の実施

・要支援者施設における避難計画の策定及び訓練の促進

・効果的な「水防災意識社会」再構築に役立つ広報や資料の作成

・地区単位で効率的な避難を推進

②的確な状況把握とそれに応じた効果的な水防活動の実施

### ■水防活動の効率化及び水防体制の強化

- ・消防団等への連絡体制の再確認と伝達訓練の実施
- ・消防団や地域住民が参加した重要水防箇所の共同点検の実施

○重要危険箇所の水位を観測するための簡易水位計の設置

・必要な水防資機材の配備

・関係機関が連携した実働水防訓練の実施

○消防団等の避難場所の確保

○各管理者の情報を一括して配信できる仕組みの必要性の確認と構築

### ■市町村舎や災害拠点病院等の自衛水防の推進

・水防協力団体の募集・指定を促進

○大規模氾濫時の庁舎等の機能維持及び重要資機材への影響の確認と有効な対策の実施

・大規模工場等へ浸水リスクの説明と水害対策等の啓蒙活動の実施

④被害発生を防ぎ、一刻も早く浸水を解消させるための排水施設の運用

### ■排水施設、排水資機材の運用方法の改善

○氾濫水を迅速に排水するため、排水施設情報の共有・排水手法等の検討を行い、大規模水害を想定した熊野川下流部排水計画(案)を作成

・排水ポンプ車出動要請の連絡体制を整備し、排水計画に基づく排水訓練を実施

○排水施設の耐水化

⑤被災後の迅速な復旧・復興の実現

### ■早期復旧を実現するための被災後の対応

・地域防災計画の被災者支援の検証(避難所生活、仮設・復興住宅及び避難所用地の確保等)

○災害廃棄物処理計画の策定

### ③ 浸想図の改定を受けた実施方針の再確認

	浸想図改定により影響がある取組
避難行動、自主防災意識の向上に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・想定最大外力による大規模氾濫の場合の広域的な避難対策の検証</li> <li>・円滑かつ迅速な避難に資する施設整備(ソフトインフラ)</li> <li>・住民と行政での避難路の確認・点検および改善</li> <li>・日常から水災害意識の向上を図り、迅速な避難を実現するため、まるとまちごとハザードマップや避難誘導表示板などの整備</li> <li>・想定最大外力を対象とした洪水ハザードマップの策定・周知</li> <li>・地区単位で効率的な避難を推進</li> <li>・消防団等の避難場所の確保</li> </ul>
水防活動に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防団等の避難場所の確保</li> <li>・大規模氾濫時の庁舎等の機能維持及び重要資機材への影響の確認と有効な対策の実施</li> <li>・大規模工場等へ浸水リスクの説明と水害対策等の啓蒙活動の実施</li> </ul>
排水施設の運用に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・氾濫水を迅速に排水するため、排水施設情報の共有・排水手法等の検討を行い、大規模水害を想定した熊野川下流部排水計画(案)を作成</li> <li>・排水施設の耐水化</li> </ul>
被災後の復旧・復興に関する取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災計画の被災者支援の検証(避難所生活、仮設・復興住宅及び避難所用地の確保等)</li> <li>・災害廃棄物処理計画の策定</li> </ul>